

法律の谷間

どうしても今施行されている法律では救えない障害(児)者がいます。つい先日にご相談があった障害者も谷間です。家族の中で3人は障害者、子1人は健常、家族含めて障害は認めていません。父親が交通事故に遭い頸椎損傷になりました。2箇所目の病院に入院中じょくそうが出来、手術を受けました。今は熱があり入院継続は可能だが、「病状が落ち着けば転院を」と促されています。病院を探してくれと言われても探す能力は持ち合わせていません。同時に交通事故保険会社との交渉も難題です。約8ヶ月なるが殆ど生活保障金は貰えていないようです。保険会社との交渉の助言は出来ても相談室として保険の交渉には関われません。健常な子に託すほかありません。しかし、相手もプロ、交渉が進まないようです。

派遣労働者切りも法律で救えない問題です。

障害者にも派遣で働いている人が大勢います。「ちくたくネット」に「派遣を切られました。仕事探す方法を教えてください」と相談が増えました。皆さんの知恵が欲しいと思う今日この頃です。(北)

障害福祉なんでも相談室「ちくたくネット」

☎ 0942-52-6699

☎・FAX 0942-52-6764

✉ chikutaku-net@tune.ocn.ne.jp

4/25
土

上喜まつり

10時～15時半 楽しいイベント満載
バザーもあるよ

10時半～11時半 八女検定

場所 上妻小学校とその周辺

午後 久留米にわか
筑波山がまの油売り

EVENT

4/26
日

六輪会

おどりの会

会場 サザンクス筑後小ホール

主催 六輪会

共催 筑後市文化連盟

“Say what?”

伊之坂ミキ



日本語を勉強し始めたのが高校の時からです。高校と大学で勉強し、それと留学してから日本語が話せるようになりました。苦労したといわないのですが努力したといえます。日本語の中でもどうしても響きが悪い言葉があります。「お前」、「バカ」、「いらん」(いりません)と、最近いやになっているのは「スカン!」。「お前」と呼ばれたいと結婚する前から旦那に教えました(オイ!もダメなのですが!)「バカ」という言葉がうちの英会話教室ではつかう禁止です。「いらん」は昔からいやでいてねいな「けっこうです」か「No, thank you」と必ずつかうようにしています。では、最後に本当にきらいな言葉「スカン」が最近、息子快の気に入る言葉です。自分の思った通りでいかないと「○○がスカン!」とすぐ口ぐせのように言います。自分の気持ちを上手に表現ができないのが原因だと思いますがどうか許せません。「そのことを言っちゃだめよ!」と何回も言っても無駄です。もうちょっと正しい表現を教えて、頑張ってみるつもりなんですけど正直に言って、不安です。この時、これを言ったらいいですよというアドバイスが英語でできますが日本で育てられていないのでたまに日本語でなにを言ったらいいのかわかりません。大したかわりがないと思われるかもしれませんが、やっぱり違います。とりあえず、「スカン!」という言葉のいれかわりを考えなければなりません。早く考えなければそのうちジェイミもつかいはじめそうです。2対1だったら絶対に負けます。頑張るぞ!

お知らせ

第1回 西短文化講演会

講師 藤本隆宏 氏

NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」

2009.11~2011年放送

本木雅弘演じる秋山真之の親友広瀬中佐役で出演

入場無料



プロフィール

西日本短期大学附属高校から早稲田大学へ進学
ソウル・バルセロナと2回のオリンピックの日本代表水泳選手
その後、劇団「四季」をはじめとして多くの舞台を踏み「男たちの大和」など本格的な俳優活動を開始。

とき 5月2日(土) 午前11時より

会場 西日本短期大附属高校「記念館」

主催:西日本短期大学附属高校 問い合わせ:23-5662

グリーントコトの 子育て日記

星の王子様

中学の頃に読んだ『星の王子様』を、十数年ぶりに劇で見た。

——羊が一輪のバラの花を食べようと、大人達には問題ではない——その言葉の意味を、大人になっ

て今再び考えた。

どこにでも咲くバラの花。けれど、王子が自分の星に咲く一輪のバラを愛おしく思うのは、王子がそのバラに毎日水をあげて育てたから。どこにでも咲いているようで、その人にとってはたった一輪しかない一番の花。大人にはその花がなかなか見えないのかもしれない。——大切なものは目には見えない——この言葉が重く残る。

娘が石を拾ってきた。石というよりガラスの破片が削れたもので光った石のように見える。娘は「宝石を見つけたー」と喜んで見せてくれた。あまりに嬉しくて、学校へ持って行って先生に見せるとい

う。次の日、さっそくそれを見せに行ったが持って帰ってこなかった。「先生！ほら！きれいでしょ」と言っ

娘はずっと気になっていた宝石のことを、私も手伝いながらとうとう勇氣を出して先生に言った。すでに先生はどこへ行ったか覚えておらず、数日後、「ごめんね」と言っ

て代わりきれいな色をした石を三つ、わざわざお店で買ってきて娘にくれた。私は先生を気の毒に思いながら、娘の様子を見ていた。

「これ大きいなあ」と、つぶやく。「これもきれいな色」と、私が言う

と、「もしあれが見つかったら先生が大切に持っ

て言われた。もう二度と宝石は戻ってこないよ。私が見つけたのはこんなに大き

くない。小さくてキラキラ光ってたもん

あの宝石を拾ったことは奇跡やもん」と、

泣き出した。大人からすればどこにでも

あるガラスの破片。決して大きくなくても

きれいな色でなくても、この子にとっ

てはこの世でたった一つの宝石なのだ。

——羊が一輪のバラの花を食べようと、大人達には問題ではない——

——砂漠が美しく見えるのは、そのどこかに井戸を隠しているから。夜空が美しく見えるのは、そのどこかに王子が今も

バラと暮らしているから——

——大切なものは目には見えない——

そんな台詞が胸を突く。娘の宝石は私達大人には見えないのかもしれない。その

宝石がどんなに美しく、どんな輝きを放

っていたのかも……。 (志穂)